

日本学術会議 総合工学委員会・機械工学委員会合同
計算科学シミュレーションと工学設計分科会

計算科学を基盤とした産業競争力強化の検討小委員会
第24期・第5回 会議議事録

日 時 平成31年2月14日（木） 11：30～12：30

会 場 日本学術会議5階 5-C(1)会議室

出席者 佐々木直哉、金田千穂子、青木伸俊、青柳岳司、井手貴範、宇佐見護、
大出真知子、大野隆央、越塚誠一、白鳥正樹、立石勝、萩原一郎
吉田有一郎、大富浩一（オブザーバー参加）（敬称略）

議事

1) 前回議事録の確認

出席委員により議事録を承認することを確認した。

2) シンポジウムに開催に向けて最終確認

- ・会場系の役割分担の再確認
- ・パネルディスカッションでは、委員は積極的に議論に参加する

配布資料

資料1 議事次第

添付資料

シンポジウム 総合討論用の資料と聴衆からの意見メモ

公開シンポジウム聴衆から出た意見のメモ

公的研究機関、ユーザー、ソフトウェア会社の最適な関係性

公的研究機関は計算科学者を指していると思うが、三者だけが関係者なのか。計算結果の検証をする実験計測技術者や、様々なコンサルティングを行う人材も考慮すべきではないか。

Nastran のように、ソフトを作りながらオープンすることで成功した事例がある。

開発費は、お金を持っているユーザー企業が受益者負担で負担すべき。

論文フェイズのソフトは枯れていないので、実用上は使い物にならない。

開発者とユーザーが課題を共有していない。

開発段階からベンダーに参加してもらいうまくいった例もある。

これから求められる人材像とその育成のための環境整備

最近の学生は社会貢献にも魅力を感じている。

CAE 技術者の地位向上が必要（賞の設定など）

AI 関係の人材を早急に育成してほしい。

AI の専門家が応用に踏み込むより、応用側から AI をツールとして使いこなすのが効果的ではないか。

優秀な学生を呼び込むには CAE の研究モチベーションに多いコストカットだけではなく、新たな価値の創造など夢とロマンを見せて欲しい。

国内のソフトウェア開発側のモチベーションの向上

モチベーションアップには技術者の正しい評価が必要、しかし正しい評価は基本的に無理で、正しく評価できるのは雇用者（社長）だけではないか。